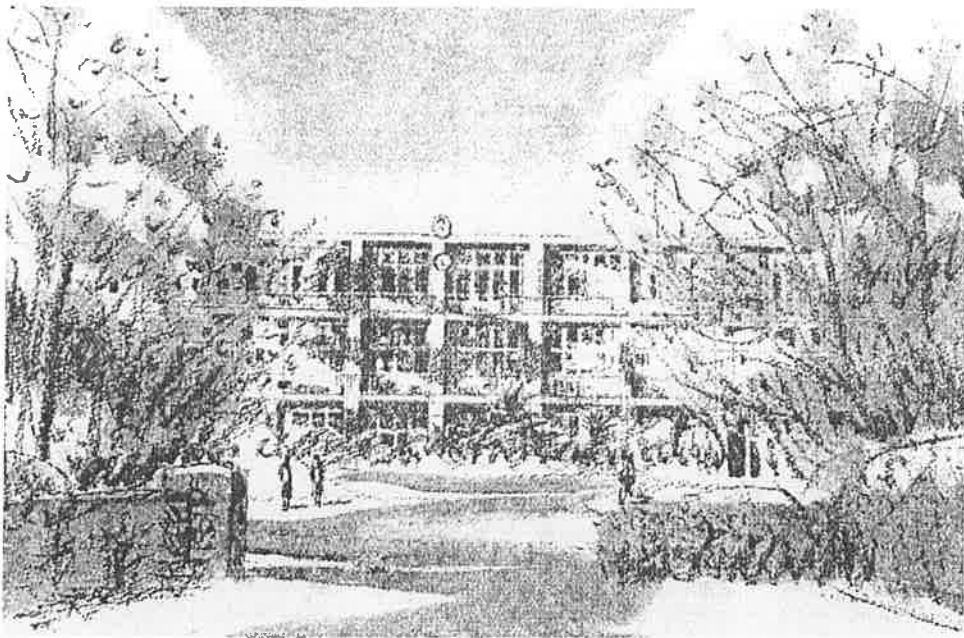




鳴海ヶ丘会

【 総 会 】



日 時：令和8年10月15日（木）
18：30～

会 場：ホテル四季亭

宮崎県立高鍋高等学校同窓会

鳴海ヶ丘会総会会次第

進行：杉田

1. 開式の言葉 副会長 米田 礼子
2. 同窓会会長あいさつ 会 長 岩切 正司
3. 学校代表あいさつ 校 長 石川 展
4. OB職員紹介 (20ページ)

議長選出

5. 議 題

(1)第1号議案

明倫奨学金規定の改正について (9ページ～10ページ)

(2)第2号議案

令和7年度事業報告・決算報告・監査報告 (11 ページ～15ページ)

(3)第3号議案

令和8年度事業計画(案)・予算(案) (16ページ～17ページ)

(4)第4号議案

令和8年度OB祭について (18ページ)

(5)第5号議案

その他

6. 報告事項

(1)明倫奨学金・明倫特別奨学金・青春謳歌なでしこ奨学金について (19ページ)

(2)その他

7. 閉式の言葉 副会長 米田 礼子

宮崎県立高鍋高等学校同窓会「明倫奨学金」規定

第1章 総則

第1条 目的

高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」（以下「本会」という。）は、大学に進学する卒業生並びに在校生が参加する交流事業等に対して支援を行うことにより、社会に有為な人材を育成するとともに、高鍋高校の魅力向上に資することを目的として「明倫奨学金」規定（以下「本規定」という。）を定める。

第2条 基金

本規定の基金は、第1条の目的に賛同する高鍋高校同窓生等の寄付金により設けられた「明倫奨学金」基金によりその全額を出資する。

第3条 基金の使途

- （1）卒業生に対する大学奨学金支援給付金
- （2）在校生の資質能力向上のための交流事業等への支援金

第4条 奨学生の資格、人数、金額及び給付期間等

- （1）前条第1号に規定する奨学生となる者は、人物、学力共に優れた高鍋高校卒業生とし、人数は、各年度卒業生より1名とする。ただし、希望者多数の場合は複数名とすることができる。
- （2）前号の奨学金は1名あたり月額20,000円とし、4年間給付する。返還義務はない。
- （3）前条第2号に規定する在校生に対する支援金の給付については、同窓会三役会において、事業内容及び給付金額等について審議し決定する。

第5条 奨学生審査委員会

- （1）本規定の奨学生の採用及び適格審査等のため、奨学生審査委員会（以下「審査委員会」という。）を置く。
- （2）審査委員会は、次のように構成される。
同窓会長、同窓会副会長、校長、副校長、教頭、進路指導部主任、3年学年主任・副主任、同窓会事務局長
- （3）審査委員会は、奨学生としての資格の審査を行う。
- （4）審査委員会は、原則3月末に開催する。
- （5）審査委員会における審査結果については、後の理事会に報告するものとする。

第2章 奨学生の採用及び奨学金の給付

第6条 奨学金申込書の提出

- （1）奨学生志望者は、高校3学年時に、本会あてに奨学金申込書、その他会長が定める書類を提出して、その審査を受けなければならない。

第7条 奨学生の採用

- (1) 奨学生の採用は、前条により提出された書類について、第5条に規定する審査委員会で審議し、採用者を決定する。
- (2) 本会は、前号の審議結果について該当者に通知を行う。

第8条 奨学生の異動届

奨学生又はその保護者は、次の項目に該当する場合は、直ちに本会に届け出なければならない。

- (1) 休学・復学・転学・留学・退学をした場合、又は原級留置の措置を受けた場合。
- (2) 本人の氏名又は保護者の氏名、住所、その他重要な事項に変更があった場合。
- (3) 奨学生が死亡した場合。

第9条 転学、留学又は退学による奨学金の取扱

- (1) 奨学生が、退学又は転学したときは、奨学金を辞退したものとみなす。
- (2) 奨学生が休学、留学した場合、又は原級留置の措置を受けた場合は、原則として奨学金の交付を休止する。

第10条 奨学金の辞退

奨学生は、随時奨学金の辞退を申し出ることができる。

第3章 奨学金規約の変更

第11条 本規定の変更については、理事会の承認を必要とする。

附 則

- 1. 本規定は平成23年 8月13日より施行する。
- 2. 本規定は平成23年12月 8日改正
- 3. 本規定は平成24年 6月 1日改正
- 4. 本規定は令和 8年 1月29日改正

令和7年度鳴海ヶ丘会事業報告

宮崎県立高鍋高等学校同窓会

	事業内容
4月 9日(水) 26日(土)	会計監査 13:00～15:30 鳴海ヶ丘会館 PTA総会 令和7年度明倫奨学金奨学生発表
5月 8日(木) 26日(月)	三役会 18:00～ 鳴海ヶ丘会館 (会長、副会長、校長、教頭、学校担当、R70B祭実行委員等 合計15名出席) 理事会 18:30～ 鳴海ヶ丘会館 (会長、副会長、校長、教頭、学校担当、R70B祭実行委員等 合計22名出席)
6月 8日(日) 27日(金)	東京支部総会 12:30～16:00 アルカディア市ヶ谷 (会長、校長等 合計 88 名出席) 第2回三役会 17:30～ 総会(評議員会) 18:30～ 終了後懇親会 ホテル四季亭 (会長、副会長、校長、教頭、学校担当、R70B 祭実行委員等 合計 50 名出席)
7月 1日(火) 20日(日)	明倫奨学金振込日 関西支部総会 12:00～15:00 道頓堀ホテル (副会長、校長等 合計 41 名出席) 鳴海ヶ丘会々報89号発刊
11月 11日(火) 11月 21日(金) ～22日(土) 29日(土)	宮崎地区支部合同総会 18:30～21:00 MRTmicc (会長、校長等 合計 65 名出席) 高鍋高校「鳴海ヶ丘会」令和7年度OB祭(実行委員: H14年卒) テーマ「愛×夢 そして故郷を想う」 21日 ゴルフコンペ 7:30～ 宮崎座論梅GC 懇親会 17:30～ ホテル四季亭 22日 講演会 13:30～ 高鍋高校体育館 高鍋フェス 13:30～ 高鍋高校 花火 17:45～ 小丸川河川敷 福岡支部総会 13:00～・天神テルラ (会長、校長等 合計37名出席)
1月 24日(土) 29日(木)	川南支部総会 18:00～ ホテルカワミーナ (会長、校長等 合計 61 名出席) 第3回三役会 19:00～ 鳴海ヶ丘会館 (会長、副会長、校長、学校担当等 合計 13 名出席)
2月 2日(月) 13日(金) 27日(金)	明倫奨学金振込日 OB祭引継会 18:30～ ホテル四季亭 (会長、副会長、顧問、鳴海ヶ丘会館館長、教頭、学校担当、R70B 祭実行委員、 R80B 祭実行委員 合計 22 名出席) 同窓会入会式 13:30～ 高鍋高校体育館 鳴海ヶ丘会々報 90 号発刊
3月 18日(水)	明倫奨学金奨学生審査委員会 17:00～ 高鍋高校

令和7年度 同窓会費収支決算書

収入の部

(単位 = 円)

費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会 費	2,668,800	2,660,000	-8,800	556名×400円×12ヶ月
繰 越 金	2,066,545	2,066,545	0	
特 別 収 入	0	100,000	100,000	S59年還暦同窓会
雑 収 入	0	107,559	107,559	預金利息・日向支部より支援金戻入
合 計	4,735,345	4,934,104	198,759	

支出の部

(単位 = 円)

費 目	予算額	決算額	残 額	摘 要
事 務 費	205,000	176,105	28,895	事務用品、消耗品、Wi-Fi、携帯電話、コピー機リース料
会 議 費	80,000	60,936	19,064	三役会、理事会、他
事 務 局 費	0	0	0	事務局会議費R6年度より削減
事 業 費	1,575,800	1,549,228	26,572	
内				
OB祭関係費	150,000	150,000	0	OB祭実行委員会援助 R7年OBへ120,000、R8年OBへ30,000
支部援助費	235,000	231,786	3,214	支部援助費、送付料
卒業生費	77,000	69,530	7,470	卒業記念品(図書カード)、育英会表彰
事業推進委員	300,000	284,112	15,888	同窓会企画広告料、他
広報費	118,800	118,800	0	鳴海ヶ丘会 会報
人 件 費	630,000	630,000	0	館長謝礼、事務人件費
ホームページ管理費	65,000	65,000	0	管理者への手当、サーバー代
鳴海ヶ丘会館 維持費	550,000	550,000	0	光熱費・火災保険料等会館維持管理費 消耗品・備品費他
旅 費	300,000	293,539	6,461	
特 別 積 立 金	600,000	600,000	0	
改 修 積 立 費	400,000	400,000	0	
雑 費	0	0	0	
予 備 費	1,024,545	0	1,024,545	
合 計	4,735,345	3,629,808	1,105,537	

収入金額 4,934,104 円

支出金額 3,629,808 円

繰越金額 1,304,296 円

(収支) 4,934,104円 - 3,629,808円 = 1,304,296円 (繰越金額)

監査報告書

令和7年度 同窓会会計 について監査の結果、
適正に処理されていると認められましたので報告します。

令和8年 4月2日

監事

黒田千穂子



監事

廣川 仁



令和7年度 鳴海ヶ丘会館収支決算報告書

収入の部

項 目	金 額	備 考
繰越金	968,656	令和6年度より
高校同窓会	550,000	会館維持費
会館使用料	537,100	
雑収入	1,201,809	落雷による保険・預金利息
合 計	3,257,565	

支出の部

項 目	金 額	備 考
燃料費	62,027	ガス、灯油
電気料	421,221	電灯、電力(前年度443,875)
水道料	147,108	(前年度152,295)
防災費	132,000	消防用設備等点検料
修繕費	1,251,239	エアコン設備修繕費他
火災保険料	177,870	
消耗品・備品費	7,054	トイレットペーパー他
合 計	2,198,519	

収入金額 3,257,565 円
 支出金額 2,198,519 円
 繰越金額 1,059,046 円

監査報告書

令和7年度 鳴海ヶ丘会館会計について監査の結果、
 適正に処理されていると認められましたので報告します。

令和8年 4 月 2 日

監事 黒田千穂子 印

監事 廣川 仁 印

令和7年度 高鍋高校同窓会「明倫奨学金」収支決算報告書

収入の部

項 目	金 額	備 考
繰越金	22,605,260	令和6年度より
寄付金(高信)	1,536,334	令和7年度
寄付金(郵貯)	99,000	令和7年度
雑収入	19,610	預金利息
合 計	24,260,204	

支出の部

項 目	金 額	備 考
明倫奨学金	1,460,000	240,000円4名・インド工科助成
明倫特別奨学金	0	
事務費	7,215	お礼状送付料、振込手数料、他
合 計	1,467,215	

収入金額 24,260,204 円
 支出金額 1,467,215 円
 繰越金額 22,792,989 円

監査報告書

令和7年度 「明倫奨学金」会計について監査の結果、
 適正に処理されていると認められましたので報告します。

令和8年 4 月 2 日

監事 黒田千穂子 印

監事 廣川 仁 印

同窓会費からの積立金

(1) 110周年積立金

	収入	支出	備考
平成11年	800,000	解約	80周年特別積立金
平成12年	500,000	H24年6月解約	
平成13年	300,000	H24年6月解約	
平成14年	300,000	H24年6月解約	100周年積立金
平成15年	300,000	H24年6月解約	〃
平成16年	300,000	H24年6月解約	〃
平成17年	300,000	R3年7月解約	〃
〃		800,000	(支出: 体育館緞帳代)
〃	400,000	H24年6月解約	(体育館緞帳代 返済)
平成18年	300,000	R3年7月解約	100周年積立金
〃	400,000	H24年6月解約	(体育館緞帳代 返済)
平成19年	300,000	R4年1月解約	100周年積立金
平成20年	300,000	R4年1月解約	
平成21年	300,000	R4年1月解約	〃
平成22年	300,000	R4年1月解約	〃
平成23年	300,000	R4年1月解約	〃
平成24年		2,500,000	(90周年記念事業へ)
〃	300,000	R4年1月解約	100周年積立金
〃	580,000	R4年1月解約	90周年記念事業残金より
平成25年	200,000	R4年1月解約	パソコン購入の為、削減しました
平成26年	200,000	R4年1月解約	旅費補填の為、削減しました
平成27年	300,000	R4年1月解約	100周年積立金
平成28年	300,000	R4年1月解約	〃
平成29年	300,000	R4年1月解約	〃
平成30年	300,000	R4年1月解約	〃
令和元年度	300,000	R4年1月解約	〃
令和2年度	300,000	R4年1月解約	〃
令和3年度		600,000	(100周年記念事業へ)
令和3年度		4,580,000	(100周年記念事業へ)
令和3年度	300,000	R4年12月解約	100周年積立金
令和4年度		300,000	
令和4年度	300,000		110周年積立金
令和5年度	300,000		〃
令和6年度		600,000	鳴海ヶ丘会館浴室給湯設備工事の為削減
令和7年度	600,000		110周年積立金
計 ①	9,980,000	9,380,000	600,000

(2) 鳴海ヶ丘会館 大規模改修積立金

	収入	支出	備考
平成15年	500,000	H29年6月解約	
平成16年	500,000	H29年6月解約	
平成17年	500,000	H30年9月解約	
平成18年	200,000	H29年6月解約	緞帳代返済の為、削減しました
平成19年	500,000	R2年5月解約	
平成20年	500,000	R4年12月解約	
平成21年	500,000	R4年12月解約	
平成22年	500,000	R4年12月解約	
平成23年	500,000	R4年12月解約	
平成24年度	300,000	R4年12月解約	鳴海ヶ丘会館修理のため、削減
平成25年	0		鳴海ヶ丘会館畳表替へ50万円
平成26年	500,000	R4年12月解約	
平成27年	500,000	R4年12月解約	
平成28年	500,000	R4年12月解約	
平成29年		1,200,000	洋式トイレ設置、業務用電気炊飯器購入
〃	500,000	R4年12月解約	
平成30年		500,000	エアコン取替のため解約
〃	500,000	R4年12月解約	
令和元年度	400,000	R4年12月解約	
令和2年度		500,000	鳴海ヶ丘会館電灯、動力容変工事のため解約
令和2年度	400,000	R4年12月解約	
令和3年度	200,000	R4年12月解約	
令和4年度	200,000	R6年7月解約	
令和5年度	200,000	R6年7月解約	
令和5年度		5,800,000	
令和6年度		400,000	鳴海ヶ丘会館浴室給湯設備工事の為削減
令和7年度	400,000		
計 ②	8,800,000	8,400,000	400,000

特別積立金合計 (①+②)

令和7年度現在 1,000,000円

令和8年度鳴海ヶ丘会事業計画（案）

宮崎県立高鍋高等学校同窓会

		事業内容
4月 2日(木) 25日(土)		会計監査 13:00～15:00 鳴海ヶ丘会館 PTA総会 令和8年度明倫奨学金奨学生発表
5月 11日(月) 25日(月)		執行部会 19:00～ 鳴海ヶ丘会館 (会長、副会長 合計 6名出席) 第1回三役会 19:00～ 鳴海ヶ丘会館 (会長、副会長、校長、教頭、学校担当、R80B祭実行委員等 合計11名出席)
6月 8日(月) 14日(日) 26日(金)		理事会 19:00～ 鳴海ヶ丘会館 (会長、副会長、校長、教頭、学校担当、R80B祭実行委員等 合計23名出席) 東京支部総会 12:30～16:00 アルカディア市ヶ谷 (会長、校長等 合計 名出席) 第2回三役会 17:30～ 総会(評議員会) 18:30～ 終了後懇親会 ホテル四季亭 (会長、副会長、校長、教頭、学校担当、R80B祭実行委員等 合計 名出席)
7月 1日(水)		明倫奨学金振込日 鳴海ヶ丘会々報91号発刊
9月 6日(日)		関西支部総会 12:00～15:00 道頓堀ホテル (会長、校長等 合計 名出席)
11月 20日(金) ～21日(土) 日() 28日(土)		高鍋高校「鳴海ヶ丘会」令和8年度OB祭(実行委員：H15年卒) テーマ「笑和」 20日 ゴルフ交流会 7:30～ 宮崎座論梅GC 懇親会 18:30～ ホテル四季亭 21日 高鍋フェス 11:30～ 高鍋高校 打上げ花火 17:45～ 小丸川河川敷 宮崎地区支部合同総会 18:00～21:00 MRTmicc (会長、校長等 合計 名出席) 福岡支部総会 (会長、校長等 合計 名出席)
1月 日() 日()		川南支部総会 18:00～ ホテルカワミーナ (会長、校長等 合計 名出席) 第3回三役会 19:00～ 鳴海ヶ丘会館 (会長、副会長、校長、学校担当等 合計 名出席)
2月 1日(月) 日() 日()		明倫奨学金振込日 同窓会入会式・鳴海ヶ丘会々報92号発刊 OB祭引継会 18:00～20:00 ホテル四季亭 (会長、副会長、校長、学校担当、R80B祭実行委員等 合計 名出席)
3月 日()		明倫奨学金奨学生審査委員会 高鍋高校

令和8年度 同窓会費予算 (案)

収入の部

(単位 = 円)

費 目	予算額	(前年度決算額) 前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	2,803,200	(2,660,000) 2,668,800	134,400	584名×400円×12ヶ月
繰 越 金	1,304,296	(2,066,545) 2,066,545	-762,249	
特 別 収 入	1,000	(100,000) 0	1,000	
雑 収 入	1,000	(107,559) 0	1,000	預金利息
合 計	4,109,496	(4,934,104) 4,735,345	-625,849	

支出の部

(単位 = 円)

費 目	予算額	(前年度決算額) 前年度予算額	増 減	摘 要
事 務 費	205,000	(176,105) 205,000		事務用品、消耗品、Wi-Fi、携帯電話、コピー機リース料
会 議 費	80,000	(60,936) 80,000		三役会、理事会、評議員会 (総会)
事 業 費	1,625,800	(1,549,228) 1,575,800	50,000	
内 訳	OB祭関係費	(150,000) 150,000	0	OB祭実行委員会援助
	支部援助費	(231,786) 235,000	0	支部援助
	卒業生費	(69,530) 77,000	0	卒業記念品、育英会表彰
	事業推進費	(284,112) 350,000	50,000	理事会旅費、お祝い金、弔慰金など
	広報費	(118,800) 118,800	0	鳴海ヶ丘会々報
	人件費	(630,000) 630,000	0	館長謝礼 (30,000) 事務人件費 (600,000)
	ホームページ管理費	(65,000) 65,000	0	管理者への手当 サーバー代
鳴海ヶ丘会館 維持費		(550,000) 550,000		燃料・電気・水道・火災保険料 修理費・備品費
旅 費		(293,539) 300,000	0	県外支部総会旅費
特 別 積 立 金		(600,000) 200,000	-400,000	110周年特別積立
改 修 積 立 金		(400,000) 200,000	-200,000	鳴海ヶ丘会館 大規模改修積立
雑 費		(0) 1,000	1,000	
予 備 費		(0) 947,696	-26,849	
合 計		(3,629,808) 4,109,496	-625,849	

令和6年度より名古屋・延岡・日向・都農・木城支部休会中

第4号議案 令和8年度高鍋高校OB祭

○目的

宮崎県立高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」の一層の充実と発展を目指し、記念行事及び懇親会を行い、世代を越えた会員相互の親睦と交流、また在校生や地域住民とのつながりを深めることで、母校の繁栄と地域の繁栄に寄与する。

○開催日程・概要

11月20日(金)

- ゴルフコンペ(宮崎座論梅ゴルフクラブ)
- 懇親会(ホテル四季亭)

11月21日(土)

- ステージイベントと屋台(高鍋高校校庭)
- 打上げ花火



実行委員長 倉永佳祐よりご挨拶



令和8年度高鍋高校OB祭実行委員長を務めさせていただくことになりました倉永佳祐と申します。実行委員を代表してご挨拶申し上げます。

昨年度は、小倉啓太実行委員長のもと「愛×夢～そして故郷（ふるさと）を想う～」というテーマが掲げられ、同窓生同士のつながりはもちろん、故郷・高鍋への想いを改めて感じることでできる素晴らしいOB祭となりました。

その想いを引き継ぎ、私たち令和8年度実行委員掲げたテーマは「笑和（しょうわ）」です。当時の思い出を共有できる仲間が集い、話に花を咲かせ、気がつけば輪が広がっていく。「笑う」の笑に、「平和」の和、そして昭和生まれの私たちの「和」。世代や立場を越えて笑顔と和が広がるOB祭にしたいという想いを、この「笑和」という二文字に込めました。

形式にとらわれるのではなく、久しぶりに顔を合わせ、当時に戻ったような気持ちで語り合える、同窓会の延長線上にあるOB祭を、目指しております。現在、内容を鋭意検討しておりますが、今年もフィナーレには、秋の夕空を彩る花火の打上げを予定しております。皆様にも是非お越しいただき、ともに笑いあえる時間を共有できればと思っています。

今後とも、ご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



6. 報告事項

(1) 令和8年度明倫奨学金奨学生について

横山 莉音(よこやま りおん)
立教大学経営学部経営学科

(2) 令和7年度明倫特別奨学金について

該当者なし

(3) 令和8年度青春謳歌なでしこ奨学金について

中武 音羽(なかたけ とわ)
鹿屋体育大学体育学部スポーツ総合課程

(4) 令和7年度同窓会育英会会長賞受賞者報告

松永 雄太(まつなが ゆうた)

柴下 麗愛(しばした れな)

金崎 珠久(かなざき みく)

小西 凜佳(こにし りんか)

(5) 明倫奨学生レポートについて(24ページ～ 27ページ)

高鍋高校OB職員名簿

高鍋高校管理職

役職	氏名	在職期間
校長	石川 展	令和8年度着任
教頭	木村 英二	令和8年度着任 OB職員 H3卒業
教頭	三浦 章子	令和7年度着任
事務長	中武 孝一	令和8年度着任

OB職員

氏名	卒業年	主な校務分掌	部活動	教科
馬庭 政剛	S 5 8	生涯広報・図書部 1学年所属	バスケットボール部	数 学
池田 昌弘	S 5 9	保健環境相談部 1学年所属	陸上部	保 体
清 俊憲	S 6 3	教務部・1学年副担任	放送部	化 学
岩切佳代子	H 3	進路支援部 3学年副担任	音楽部	音 楽
檜室 秀幸	H 5	渉外広報・図書部 2学年副担任	ラグビー部	保 体
沼口 将之	H 1 0	渉外広報・図書部 3学年担任	野球部	地 理
高木 美里	H 1 1	生徒支援部 3学年担任	ホッケー部	保 体
布留川 文	H 1 4	進路支援部 1学年担任	文芸部	国 語
酒匂 崇匡	H 1 7	教務部 1学年副担任	野球部	生 物
深田 聖	R 3	保健環境相談部 2学年所属	剣道部	保 体

- 第1条 本会は宮崎県立高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」と称し、事務局を宮崎県立高鍋高等学校内に置く。
- 第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の進展に寄与すると共に、地方文化の推進中核団体として文化国家の建設に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会はその目的を遂行するため、次の事業を行う。
1. 会報及び会員名簿の発行。
 2. 母校の後援並びに母校新卒業生の同窓会入会式。
 3. 講演会・音楽会などの開催・及びその他目的達成のため必要な事業。
 4. 功労者等の表彰。詳細内規は別に定める
- 第4条 本会は次の会員をもって組織する。
1. 正会員・・・宮崎県立高鍋高等学校卒業生、鶴友会会員、みどり会会員並びに本校に在学したもの。
 2. 特別会員・・・宮崎県立高鍋高等学校現教職員、旧教職員並びに鶴友会、みどり会の特別会員。
 3. 賛助会員・・・本会の主旨に賛同し、評議員会の承認を得た者。
- 第5条 本会は次の役員を置き、次の任務を司る。
1. 会 長（1名）・・・会を代表し、会務を統括する。
 2. 副会長（若干名）・・・会長を補佐し、会長事故ある時は会長を代行する。
 3. 監 事（2名）・・・会の事業及び会計の監査に当る。
 4. 鳴ヶ丘会館長（1名）・・・会館の運営並びにその維持、管理に当る。
 5. 支部長・・・支部を司り、会長の諮問に応ずると共に、緊急重要事項の審議に任ずる。
 6. 評議員・・・会の運営を司り、会長の諮問に応ずると共に、緊急重要事項の審議に任ずる。
 7. 事務局長（1名）・・・本会与母校との連絡及び事務処理に任ずる。
 8. 理 事・・・会長、副会長、監事、顧問、鳴海ヶ丘会館館長、支部長は理事となり、会の運営を司り、会長の諮問に応ずると共に、緊急重要事項の審議に任ずる。
- 第6条 本会の役員は次の手続きをもって選出する。
1. 会 長・・・正会員の中より理事会が推薦し、評議員会の議を経て総会によって選出する。
 2. 副会長・・・同上
 3. 監 事・・・同上
 4. 鳴ヶ丘会館長・・・正会員の中より理事会が推薦し、会長が委嘱する。
 5. 評議員・・・各卒業期ごとに2名、及び鶴友会、みどり会より若干名各々選出し会長が委嘱する。
 6. 事務局長・・・同窓会副会長の中より会長が委嘱する。
- 第7条 本会の役員の任期は2年とし、再任を妨げない。任期中途において欠員を生じ、その補充をする場合、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 第8条 本会は顧問を置くことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が委嘱する。但し、学校長並びにPTA会長は顧問とする。
- 第9条 本会の会議は次の通りとし、次の議決をする。
1. 評議員会・・・役員全員をもって組織し、年1回これを開き、予算・決算の承認、役員の選出・承認、および会則の変更等重要事項の議決をする。議長は副会長が務める。（評議員会をもって総会とする）
 2. 理 事 会・・・理事をもって組織し、会の運営に関する事項、ならびに緊急事項を決議する。ただし、緊急決議事項は、評議員会に報告し承認を得なければならない。議長は副会長が務める。
 3. 三 役 会・・・会長、副会長、事務局長（必要に応じて顧問）をもって組織し、年3回（各学期1回）これを開き、会の運営に関する事項、ならびに、緊急重要事項を審議する。

明倫特別奨学金制度実施要項

1 趣旨

この制度は、難関大学に進学する現役卒業生に対して特別奨学金を給付することにより、進学校としての本校の教育理念を実現するとともに、地域貢献や日本の将来を担う有為な人材の育成を目的として実施するものとする。

2 給付対象

給付の対象は、将来の社会貢献が大いに期待される難関大学に進学する現役卒業生とする。

3 候補者の推薦と決定

特別奨学金給付候補者の推薦は、母校（宮崎県立高鍋高等学校）の校長（以下「校長」という。）に委任するものとする。校長は明倫奨学金規定の審査委員会において協議・審査し、候補者を鳴海ヶ丘同窓会長（以下「会長」という。）に推薦するものとする。会長は校長から推薦のあった候補者について本制度の趣旨に則しているか審査し決定する。

4 推薦基準

候補者の推薦は次の基準で行う

以下に示す大学に進学した者

・ 難関国立10大学

東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学、名古屋大学、北海道大学、九州大学、東京科学大学（前東京工業大学）、一橋大学、神戸大学

・ 国公立大学の医学部医学科・薬学部・獣医学部

・ 難関私立大学（早稲田大学、慶応大学）

5 誓約

明倫奨学金特別奨学金の給付を受けるものは、保護者とともに会長および校長に誓約書（別紙様式）を提出し、鳴海ヶ丘会同窓生の誇りを胸に大学生活を過ごす決意を表明するものとする。

6 管理

特別奨学金の給付に係わる管理については、鳴海ヶ丘会事務局が責任を持って行い、会計年度ごとに鳴海ヶ丘会総会に報告するものとする。

7 給付額

一人あたりの給付額は次のとおりとする

300,000円

8 委任

この要項に定めるもののほか、この要項の実施に関し必要な事項は会長が定める。

付則

1. この要項は、平成31年 2月 1日から施行する。

2. この要項は、令和 4年11月18日改正。

- 第10条 本会の会議の決議は出席の過半数をもって決する。賛否同数のときは会長がこれを決する。但し、理事会は2分の1以上の出席者をもって成立するものとする。
- 第11条 本会の経費は下記をもって充当する。
1. 会費・新たに正会員となるものは、会費月額400円を在校期間中を通じて納入するものとする。但し、途中でその資格を失っても、納会費は返納しない。
 2. 寄付金・事業収入・特別会報購読料・その他の収入。
- 第12条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。
- 第13条 本会の事務を処理するため、事務局に会計係及び庶務係を置く。全項の係員は会長が委嘱する。
- 第14条 本会は必要に応じて支部を置くことができる。支部規定は別に定める。
- 第15条 本会の会則は総会に出席した会員の過半数の同意がなければ、変更することができない。

附 則

1. 本会設立と同時に鶴友会・みどり会の資産は全て本会に引き継ぐものとする。
2. 本会則は昭和24年5月22日より施行する。
3. 本会則は昭和62年8月15日改正。
4. 本会則は平成5年8月14日改正。
5. 本会則は平成11年8月12日改正。
6. 本会則は平成16年8月14日改正。
7. 本会則は平成22年8月28日改正。
8. 本会則は平成28年8月13日改正。
9. 本会則は令和6年8月9日改正。6条の6 9条の1. 2. 3. 4

第3条4項内規

1 表彰規定

(1) 目的

この規定は本会及び高鍋高等学校の発展に貢献し、功労のあった者、並びに在学中において学業、部活動等で優秀な成績を修めた生徒及び、生徒会活動や文化的活動において優れた実績を残した生徒を表彰し、もって本会の活動の活性化を図ることを目的とする。

(2) 表彰者

表彰者は会長と校長とする。

(3) 表彰内容

表彰は次の賞状と必要に応じて副賞を付与することができる。

1 功労者表彰及び感謝状

(永年にわたり役員を務め、本会の発展にすこぶる貢献した者。)

2 育英会会長賞

(内規は校内で定める。)

3 その他

(4) 選考

1 三役会において選考し、理事会で承認を得て、総会で報告を行う。

2 育英会会長賞においては、本校の三年学年会で推薦し、校長の承認を得た者を表彰する。

2 慶弔規定

本会の慶弔等に関する規定は、次のとおりとする。

- (1) 役員(顧問、会長、副会長、監事、支部長、館長、事務局長)及び同窓会事業に貢献された方が死亡の場合には、生花を供え弔電を打ち弔意を表す。
- (2) 評議員死亡の場合には、弔電を打ち弔意を表す。

4 年生の前期が終わって約半年が経過し、後期も終了しました。4 年間を通して、大学生活を有意義に過ごすことが出来たと考えています。大学 4 年生後期を「卒業論文執筆」と「社会人になるに向けて取り組んでいること」、「大学生活を振り返って」の 3 つに分けて書こうと思います。

はじめに、卒業論文執筆についてです。私は、電力自由化による価格変化をテーマに卒業論文を執筆しました。法改正により市場の性質が変わることに着目し、電力料金の変化を捉えることを目的としています。最初のうちは、電力市場や経済理論について詳しくはなかったのですが、様々な文献を読んだり、経済産業省のホームページで情報を収集したりすることで理解を深めることが出来ました。1 年間を通して自分の知識が増えて深まることを経験し、楽しく取り組むことが出来ました。最終的に、電力自由化による価格変化をテーマとして、卒業論文を最後まで執筆することができ、強い達成感を感じました。

次に、社会人になるに向けて取り組んでいることです。入社したときにスムーズに仕事に取り組めるように、日商簿記や TOEIC などの勉強を改めて始めました。社会人になると現在よりも自由な時間を確保することが難しいことから、今のうちに勉強をしようと考えました。毎日継続して勉強することで、着実に自分の身につけながら勉強を進めることが出来ていると実感しています。

最後に大学生活を振り返ってです。アルバイトやサークル活動ではコミュニケーション能力を、ゼミ活動ではプレゼンテーション能力を磨くことが出来ました。自分の得意なことを伸ばしながら、苦手なことにも向き合えた大学生活でした。私自身、まだまだ足りない部分が多いので、これからも常に成長を忘れずに過ごしていきたいと思っています。

高鍋高校や広島大学の関係者の方々及び、両親に心よりお礼申し上げます。また、この感謝の気持ちを忘れずに、社会人生活も過ごそうと思います。

明倫奨学金 近況報告レポート

九州医療科学大学 3年 石黒星那

3年生の前期が終了しました。3年生が始まり、以前よりも実習が多くなる中で、レポート課題と授業の復習を両立することに苦労しました。今期では、特に生理学実習と血液学実習が印象に残りました。

生理学実習では心電図や呼吸機能の測定などを通して、講義で学んだ理論と実際のデータが結びつき、理解が深まりました。また、血液学実習では血液塗抹標本の作製や染色、顕微鏡観察を行い、細胞の形態を学ぶことができました。初めは手技に戸惑う場面もありましたが、繰り返し行うことで少しずつ慣れ、基礎的な技術を身につけることができましたと思います。

勉強面では、免疫学が自分にとって苦手な分野であると感じることができました。反応の流れや用語の複雑で理解しきれない部分があるため、今後は講義の復習や国家試験の過去問の活用を通して理解を深めていきたいと考えています。

後期はさらに専門的な内容が増えてくると思うので、これまでの実習や講義で得た知識をもとに勉強と実習の両面で努力を続けていきたいです。そして最終的には病院実習で学びを実践につなげ、臨床現場で役立つ臨床検査技師になりたいです。

今回も、奨学金によるご支援をいただき、学業に専念できていることに感謝申し上げます。

近況報告について

お世話になっております。令和5年度卒の横山優莉です。

大学2年生を終え、いよいよ大学生活も折り返しを迎えました。今学期は、これまで学んできた経営の知識を実践の場で活かす機会が多くありました。

まず、サステナビリティビジネスの授業では、企業のCSR活動と今後の社会動向を踏まえ、これから企業が取り組むべき新たな社会的責任について考えました。経営者だけでなく消費者の視点から商品や政策を考える過程は非常に興味深く、実践的な学びとなりました。次に、ゼミ活動では「インドネシアに柚子を広めるプロジェクト」に取り組みました。柚子の特産地である馬路村と連携し、インドネシア市場の調査や柚子の特性分析、海外への輸出方法まで具体的に検討し、最終的にはインドネシア大学に向けて英語でプレゼンを行いました。斬新さだけでなく、現地のニーズを捉え、数年後に黒字化できる現実的なビジネスモデルを構築することは難しかったですが、その分完成したときには班員全員で抱き合って喜びを分かち合いました。プレゼン後には馬路村の方から「ぜひ実現してみたい」とのお言葉をいただいたので、来期のゼミではさらに内容を改善していきたいと考えています。

授業外では、前期に引き続き部活動のSNS運営に力を入れました。今年度からSNSリーダーを務めることになり、複数のSNSの開設や新歓企画の立案など業務は多岐にわたりますが、大きなやりがいを感じながら活動しています。また、これまでの運営を見直し、視聴回数やフォロワー数の推移などのデータを分析しながら、より効果的な発信方法を模索していきたいと考えています。

さらに、来年度から3年生となるため、本格的に就職活動に向けた情報収集を始めました。学部や部活動の先輩方との繋がりを大切にしながら、幅広い業界を研究し、自分の就職活動の軸を明確にしていきたいと考えています。

最後に、明倫奨学金給付によるご支援誠にありがとうございます。私自身が奨学金によって学ぶ機会をいただいているように、多くの人が平等に学ぶことのできる社会の実現に貢献できる人間へと成長したいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

横山優莉

高鍋高校同窓会「明倫奨学金」近況報告レポート

私は、富山国際大学に入学して約1年が経ち、学業と部活動の両立を意識しながら、充実した大学生活を送ることができた。本レポートでは、学業と部活動の2つに分け、内容を述べる。

まず、学業についてである。後期では、2年時に4つの専攻から1つの専攻を選択するための授業が増えた。専攻は、観光、環境、経営情報、英語国際キャリアの4つがあり、そのうちの観光、環境、経営情報の専攻についての概論を履修した。観光では、観光の歴史や地理などを学んだ。環境では、SDGsや環境汚染について学び、現代の問題について考えた。経営情報では、富山県で経営している企業の話の聞いたり、マーケティング、そして、パソコンで、AIを利用したプログラミングについて学んだ。これらの授業をもとに、高鍋高校C Iクラスで学んだ情報系の知識を活かしながら将来に繋げることができる経営情報専攻を選択し、2年時から学びを深めたいと考えている。

次に、部活動についてである。2025年度シーズンは様々な大会に出場した。まずは全日本大学ローイング選手権だ。この大会では、チームのシーズン最大目標としており、ここで優勝するために日々仲間たちと切磋琢磨しながら頑張ってきた。また、レース本番でもメンバーで何度もミーティングを行うなど、優勝するために最善を尽くした。その結果として、優勝をすることができ、富山国際大学としては総合準優勝も果たすことができた。また、10月には、宮崎県代表として国民スポーツ大会に成年男子ダブルスカルで出場した。この種目には日本代表やオリンピックの出場経験がある選手も出場しており、厳しい戦いとなった。しかし、結果は8位入賞と目標としていた入賞に届くことができ、点数を獲得し、宮崎県に貢献することができた。

最後に、後期では、前期で学んだ新しい体験を活かし、大会結果や学業成績に繋げることができた。これらのことを、来年度ではさらに自分の力を伸ばせるように、地に足をつけて努力し、チームに貢献はもちろん、宮崎県にもさらに貢献していきたい。

高鍋高等学校校歌

一、

鳴海が丘に 濤寄せて
文化の華の 咲くところ
緑の松に 影映えて
誉はしるく 世にかおる
象る姿 真善美
これぞ我等の理想なる

二、

天籟妙に 清き学園
高き啓示に 目覚めつつ
自由の空に 翼張り
自信の駒に 鞭あげて
北斗を指して 一筋に
栄ある使命 果さなん

三、

無限の岸に 我立ちて
移り行く世を 思う時も
思想の潮は 荒るるとも
躍進の意気 胸に燃え
暗の醜雲 打ち払い
真如の眼 開かなん

四、

尾鈴の山の 黎明に
清雪の色 鮮やかに
濁世の迷 覚まさんと
競い立ちたる 若人の
正気溢るる 古城の地
見よ 渾身の血は躍る

高鍋高等学校応援歌

一、

北に尾鈴の嶺青く
生気溢るる校庭に
炎暑に霜に鍛えたる
若人の力示すべき
よき日を今日は迎えたれ
いざいざ闘わん堂々と

二、

かのバビロンや古ローマの
興亡の跡鑑とし
慎重敵をあなどらず
錬磨の技を示すべき
よき時ここに来たりたれ
いざいざ戦わん堂々と

三、

雨か嵐か険しくも
わが高鍋の名において
不屈の気魄奮い立ち
伝統の力示すべき
よき日来れり今ここに
いざいざかちとらむわが勝利